

令和5年度 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 在宅・地域医療実習

【実習生】丸田 浩志

【実習先】①長崎宝在宅医療クリニック ②阿保外科医院 ③たくま医院
④奥平外科医院 ⑤出口外科眼科医院 ⑥安中外科・脳神経外科医院

【実習期間】令和5年5月8日(月)～ 令和5年6月16日(金)

【実習内容の概要】:

はじめに今まで病院勤務だけで、在宅医療の経験がありませんでした。今回の実習を通して、臨床に生かせるように長崎の在宅医療の実態を学ぶことを心がけました。

① 長崎宝在宅医療クリニック (5月8日、6月5日)

宝町を中心に、長与方面～中川～三和方面と広範囲を訪問診療されていました。医師が4名、事務、看護師、運転手の方もいて、多いときには130人ほど患者がいる在宅医療に特化したクリニックでした。また、南山手にショートステイ・デイサービスも含むサービス付き高齢者住宅も経営されており、そこでも訪問診療やホスピスをされていました。主に腫瘍外科の先輩である松尾先生に付きましたが、パワフルな先生でした。実習の朝から夕まで、休み無く電話でやりとりと広範囲な訪問診療を行い、新しく紹介頂いた患者さんの元にはすぐ伺い、そこで「何かあればすぐに電話して。24時間駆けつけるから」という言葉は患者や家族に大きな安心感を与えているように思えました。

② 阿保外科医院 (5月10日、6月14日)

阿保先生には、以前私が勤務していた病院で数回手術応援でご指導頂いたことがありました。東長崎を中心に広く訪問診療され、患者さんは癌、ALS、循環器疾患、認知症などの多岐に渡るものでした。特に往診の際の処置に関しては学ぶことが多かったです。下肢浮腫のある患者さんで怪我し、下肢の皮下血腫に対する切開ドレナージ法や、ターミナル患者で皮膚欠損しセブタムが剥き出しとなったポートに対する被覆材を用いたCVポート穿刺は、実際に自分で行おうとすれば悩むところもありましたが、阿保先生は患者背景やこれまでの経験を考慮し、丁寧に処置をされていました。往診の際に電子カルテと連動したタブレットを用いることで、患者情報の把握やカルテ記載、処方を行えば薬局にFAXを経由しオーダーされ、また患者が緊急で各医療機関に紹介や搬送になった際は、すぐに紹介状を作成できるとのことで、利便性が高くスピーディな診療を可能としていました。

③ たくま医院 (5月11日、6月16日)

香焼地区を中心に患者の訪問診療であった。土地柄かキリスト教の患者さんが見られました。診療風景はクリニック・在宅共に笑いが絶えず、賑やかな雰囲気でした。訥摩先生は病状だけではなく、患者さんの昔話、家族、ペット、価値観などのお話をされました。患者さんのバックグラウンドを十分に理解し、患者さんとのスキンシップを大切にされており、自分もそのような姿勢で診療を行いと思いました。



④ 奥平外科医院 (5月12日、6月9日)



居宅以外に時津・女の都のグループホームへの訪問診療に付いて行きました。患者さんの1人に、昨年度短い期間でしたが私が大学病院勤務で携わった方がいて、奥平先生の丁寧な訪問診療もあり、自宅での生活に満足されているようでした。自分が実習した日は神経疾患(ALS、脳性麻痺等)の患者さんが多く、喉頭気管分離後の気管チューブの交換の様子を見ることができました。その中で、私は理解できませんでしたが、発声のできない患者さんの口の動きだけで、奥平先生がその患者さんの意図や気持ちをしっかり把握されていたことが印象的で、医師-患者間のコミュニケーションの重要性を学ぶことができました。

⑤ 出口外科眼科医院 (5月17日)

始めに長崎在宅 Dr. ネットに関するお話を聞きました。開業医間で協力し、緊急時対応をすることで医師の負担を減らしつつ、患者さんが自宅で安心して継続的な医療を受けることを可能としていました。今後さらに増加すると思われる在宅医療のニーズへの在宅 Dr. ネットの重要性を感じました。訪問診療に関しては大浦地区を中心に異国情緒ある建物・坂道を巡りました。出口先生の診療は、難解な医療用語は極力避け分かりやすい言葉を用いてされていたことが印象的でした。

⑥ 安中外科・脳神経外科医院 (6月16日)

平日午後、土曜日に訪問診療をされ、患者数も130名と多く、0歳時も含む小児も診ており精力的な先生でした。今回は10数名の訪問診療に付いて行きました。6月とはいえ、夏前の暑い時間帯で坂道や入り組んだ家が多く、長崎特有の在宅医療を実感しました。LINE アプリ・電話を用いて医院や訪問看護と密に情報共有し、患者さんと近い距離感で診療されていました。今回の訪問診療した患者さんの中には昨年、自身が関わった小児科・小児外科の3歳の呼吸器管理されている男児が含まれていました。気管や消化管に複数のチューブ類がある幼児を診ることはたいへん抵抗感が出てしまう所だが、「頼まれたら何でも診る」という安中先生のおかげで、大学病院に勤務している我々の負担を減らして頂けると同時に、母親も有事の際の拠り所になっているのだと感じました。患者さんだけでなく、家族のサポートもされている姿勢に感銘を受けました。



・実習を終えて

外科医として疾患に対する cure を目指す医療に携わっていましたが、今回の在宅医療実習を通して、多くの care を経験することができました。終末期がん患者さんと関わる機会はありますが、今まで緩和病院に紹介することが多かったです。これは自身の在宅医療に対する知識がなかったためです。今回の訪問した患者さんはどの方も訪問診療への安心感や満足している様子を見ることができ、今後は終末期がん患者さん・家族に勧めていきたいと思いました。また、長崎特有のあじさいネットを通じて病院-クリニック間の情報の共有の簡便性を再認識でき、今後普及していくと思われるタブレットなどの電子機器の利便性も知ることができ、有意義な実習となりました。

実習報告会の様子

